

個人の言語表現に表れる対人認知のヴァリエーション

- 対話音声データの分析から -

チェ チュノ

崔 春浩

京都大学大学院人間・環境学研究科

1. はじめに

人間の言語能力は、生得的な条件だけでなく、経験にその多くを依っている。認知言語学は、その経験から構成されるのは、「普遍の原理」ではなく、その実践のコミュニティ内で作り上げられた「慣習」とであると指摘する。本発表では、個人が「慣習」をどのような形で実践しているかを明らかにする取り組みとして、テレビのトーク番組の音声データを分析する。分析には、社会的行為の分析手法である会話分析の記述法を用いるが、ある個人の複数の相手との対話を材料にする点で、言語にまつわる個人の概念構造に対する分析でもある。本研究は、対象の違いが「発話スタイル」の違いとしてどのように現れるかに着目し、対人認知と言語表現に関する実証的な理論構築に貢献する。

2. 言語にまつわる概念構造

Langacker (1987) による主張にあるように、1970 年代にその源流を認められる認知言語学は、言語の規則的な側面を「慣習」とし、生得的かつ厳密な規則の存在を否定した。さらに、Langacker (2000) に見られるように、経験基盤主義を理論の重要な観点にもおいている。このことから示唆されるのは、認知主体をとりまく環境世界における物理的な側面と社会的な側面に関して適切な記述を行う必要性であるが、認知言語学において、環境世界の社会的な側面に対して行われた研究は少ない。本発表では、その取

り組みとして、個人の対話データを集め、異なる対話参加者のデータを扱うことで、認知主体の対人認知と、発話スタイルとの関わりを考察しようという取り組みである。

3. 発話データを用いた「個人的な概念構造」記述のアプローチ

『徹子の部屋』（テレビ朝日 1976～）は、TV 放送におけるきわめて長寿番組であり、今日まで膨大な人数のゲストを招いて、対談を行ってきた。本発表では、この番組の録画データから対話をトランスクリプトする。しかし、この番組の録画データを分析対象とするにあたり、まず留意されるべき点が2つある。

- ・TV 番組である以上、編集が加えられている点
- ・同じく理由により、脚本の存在が想定される点

この2つを原因とする作為的な「ノイズ」が存在しうするため、日常繰り広げられている会話と異なる要素・振る舞いが存在する可能性は非常に高い。しかしながら、そのような「作為要因」の混じった録画データの音声を幅広いヴァリエーションで記述することで、人間がどのくらいの幅を持った「発話スタイル」を持って、言語活動をしているかに関する知見を得ることは出来る。

本発表で目的とするのは「ある個人が、対話の相手によって、どのような発話スタイルの変化を魅せるか」という点に着目し、見いだされた多様性が、その個人の対人認知を反映して駆使されていると、主張する。発話スタイルの多様性と対人認知とのつながりを明らかにするために、今回は、対話のオーバーラップに着目し、どのような相手のどのようなトピックにおいて、発話者がオーバーラップをみせたかを記述し、考察する。

4. おわりに

本発表は、対話データを会話分析の記述手法をもちいて分析を行ったが、分析の目的が、言語における個人の対人認知と関係した概念構造を記述す

るという「認知的」な興味に向けられている。この点で、従来の社会言語学的な目的のためになされた研究とは、視野が異なる。さらに、従来の理論言語学によって、記述されてきた「理想的な認知主体」を想定することなく、実際のデータによる実存する個人の概念構造の分析を行った。もちろん、このことが、適当な理論化の対象となりうるか、という点においては、別の議論が必要となるが、認知科学が対象としている「認知主体の概念構造・体系」に関する、言語学的な取り組みの発端としては、認めることが出来る。

5. 参考文献

- Coulon, Alain. (1996). *L'ethnométhodologie, 4^e édition corrigée*. Paris: Presses Universaire de France.
- (山田富秋, 水川喜文 (1996). 『入門エスノメソドロジー』, 東京: せりか書房.)
- Coulter, Jeff. (1979). *The Social Construction of Mind*, London: Macmillan.
- (西阪仰訳 (1998). 『心の社会的構成 - ヴィトゲンシュタイン派エスノメソドロジーの視点』, 東京: 新曜社.)
- Lakoff, George. (1990). *Women, Fire, dangerous thing*, Chicago: University of Chicago Press.
- Langacker, Ronald W. (1987). *Foundations of Cognitive Grammar, Vol.1*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. (2000). *Grammar and Conceptualization*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Langacker, Ronald W. (2001). *Discourse in Cognitive Grammar*. Stanford: Stanford University Press.